

2022 年度上智大学法科大学院入試 (A 日程)

一般論文試験 出題趣旨・採点基準

<出題趣旨>

新型コロナウイルス感染拡大の弊害として、同ウイルスに何らかの形で関係する人々や地域・職域などへの差別が問題となっている。本問は、インド政府が新種の「インド型変異株」に言及するコンテンツを削除するようソーシャルメディア各社に命令したことを題材に、差別に対抗するための施策と、「表現の自由」「報道の自由」侵害に対する対処とのバランスをどのようにとるべきか、考察を求める問題である。

問 1 では、長文のなかに埋め込まれている論点を的確に理解する読解力が求められる。問 2 は、問題文の「インド」にひきずられすぎずに、「日本のメディアはどのような方針をとるべきか」という問いにフォーカスした答案が期待される。飽くまで「日本のメディア」を主体として考察を進め、国の施策や個人の行動指針へと論点をずらさないことも重要。

<採点基準>

【問 1】(20 点)

- ・「インド型変異株」という通称が差別を巻き起こす可能性を盾に、インド政府がソーシャルメディア内の政府批判を封じ込めようとしていることが示されていればよい。
- ・備考 1: 「インド型変異株」という通称に対するインド政府の非難自体は、ここでの批判対象ではない。
- ・備考 2: 下線部には「政府の感染対策に批判的な内容」という一節もある。この「批判」内容（政府が講じた変異株蔓延対策が誤っている／的外れである）も加点対象とする。

【問 2】(80 点)

- ・日本のメディアがとるべき方針 (30 点)。
 - 加点例: メディアの特徴 (多くの人に情報を発信するので影響力が大きい、情報は「うのみ」にされることがある、など) をよく捉えている。
 - 加点例: 何らかの「検閲」に抗するための具体的な方針を示している。
- ・理由付け (40 点)
 - 加点例: 地名を付したウイルス通称の問題を的確に表現できている。
 - 加点例: 考えられる差別の内容や形態などを具体例などを用いて示している。
- ・その他、論理的整合性や発想力などが特に優れている答案は最大プラス 10 点。
- ・「差別」「検閲」という言葉を用いていない答案は、それぞれマイナス 10 点。

【その他】

- ・字数が極端に少ない答案は大幅減点。誤字脱字は、著しい場合のみ最大マイナス 20 点。
- ・全体として論理的整合性を欠く場合は、一律 30 点。